日本睡眠改善協議会公認インストラクター・心理療法士等の資格

地域に生きる町の小さな寝具店の経営実践を紹介します。 実践する枕の「おとみん」(音と眠りの共眠)の開発。「人も企業も役 りを人々に提供する「眠りの総合プロデュース」に自社の存在価値 生・共眠」で、明日への希望の光を提供しています。「リズム睡眠法」 に立ってこそ初めて生かされる」という経営姿勢から生み出された を見出しました。町の小さな寝具店から世の中に忘れ去られた蚊帳 を有する三島治氏(侚菊屋、静岡同友会会員)は、寝具店として、「共 という枕から始める物理的睡眠環境を提案することで、より良い眠 蘇ったことや安眠を追求した枕、そして提唱するリズム睡眠法を

より良い眠りを提供

た商店街の中で寝具店を営 田駅から徒歩五分、地元の ジュビロードと名付けられ る磐田市、JR東海道線磐 Jリーグチームにちなんで **有菊屋は静岡県西部にあ**

客様に提供することでこ そ、役に立ってもらえると げているのは、単に寝具を たします」と店頭看板に掲 秘められた本当の価値をお 売るのではなくその寝具に いう思いからです。 店を訪 「より良い眠りを提供い

地域に人に、

安らぎを与える枕

「おとみん」

(有) 菊 屋

代表取締役

三島

治氏

(静岡)

りませんでした。 は決して平坦なものではあ がらも、現在までの道のり 人たち。頼りにされること に何よりうれしさを抱きな

父の創業と急逝、 そして承継

九五一年、父・昇氏が

れる不眠に悩むさまざまな ふとん店として、「しあわせ チコピーに創業しました。 物不足の時代で、化学繊維 な夜をあなたに」をキャッ 素材やマットレスなど新し い寝具の出現もあり、一段

とで自社の社会的価値を認 ら左へ消費者に供給するこ せていました。商品を石か と寝具の需要に広がりを見 従来の寝具店としては役立 とも手に入るようになり、

った。気づけ」 の時代は終わ われました。 内心では「物 の手この手と 却できず、あ はなかなか脱 ている身から 販売営業に追 【会社概要】

へ進出してきました。寝具 から大型小売店が町の郊外 いました。 易なことではないと思って 分自身を変革することは容 磐田市でも八〇年代ころ

も、自社と自 と自らに言い を寝具専門店で購入しなく 聞かせながら 設 並 種 所在地

1951年 寝具・蚊帳の製造、販売 静岡県磐田市中泉243

http://www.anmin.com/

要だと睡眠環境学会等で眠 自分自身の勉強が今一度必

ネットで蘇る「蚊帳」

りの勉強を始めました。

「ねいるケアあんみん枕」とネイチャーサウンドが融

合した「おとみん (一式販売金額:39,900円)

を提供すること」と改めま した。その実現のためには 「人々に健康で快適な眠り

健康で快適な眠りを提供することが自社の使 眠りについて学んだ知識 命

役に立ってこそ初めて生かされる ました。蚊帳への注目は日 も多様化していきました。 に日に増し、お客様の要望

二人三脚で歩む三島治社長と 妻の朋子氏(左)

(写真家山田真梨子氏撮影)

を開設し、三島氏の挑戦が ホームページ「あなたの枕 及していない一九九六年、 れほどインターネットが普 始まりました。 を生かし「一人ひとりに合 を捜します。anmin.com」 った枕がある」と、まだそ

か?」―枕による睡眠改善

業者の技術によって洗濯で

オリジナ

ルのあんみん枕

氏は熱く語りました。

げていたキャッチコピーを

ほしい 洗濯できる蚊帳が

きない織り方でしたが、な の魚網を得意とする地元の は、静岡県の名産シラス漁 たいといろいろ探しまし た。そこでたどり着いた先 機織業者でした。 んとかお客様の要望に応え 従来の蚊帳は水洗いがで

業の街で、磐田の伝統技術 何度も工場に足を運び、 る技法で織ってほしい」と ミ織りという魚網に適応す 生地を磐田の伝統技術カラ を蚊帳に「天然麻の蚊帳の 願したところ了承して頂き 完成した生地と地元縫製 磐田市は古くから織物産

ました。その問い合わせは 売していた一九九七年、 営業に変わる出来事で 客様から一件の相談があり 提案と併せて枕や寝具を販 頼む」営業から「頼まれる」

どこにも販売されなくなっ て生かされる」。本格的に蚊 そこに自社の存続の道があ 要望に応えるために、すぐ ると気が付きました。「人も ったと喜んで頂きました。 することでお客様に役に立 た蚊帳を呼び起こし、提供 に、ネット販売を通じて、 れて届けました。これを機 帳の販売と開発に乗り出し 企業も役に立ってこそ初め いたくないというお客様の に蚊帳をメーカーから仕入 子どもがいて殺虫剤を使

「おとみん枕」「あんみん枕」 へから

適していました。

帳の生地を使用することが 熱を持ちにくい天然麻の蚊 ことができます。スピーカ ごく自然な状態に身を置く にそっと寝て居るという、 じることなく音の3D空間

-を包むカバーは、丈夫で

発に取り掛かります。 の技術を結集した「ねいる りを提供するための一手段 蚊帳の販売展開は快適な眠 リズムを整えるのに有効な させるべく、睡眠中の呼吸 を追求するという意)を開 ケアあんみん枕」(寝入る前 学会で学んだ枕理論と蚊帳 屋と思われるかもしれませ 発し、さらにこの枕を進化 んが、菊屋は寝具店です。 に枕を調整して、より安眠 化と音を融合させた枕の開 に過ぎません」と言います。 三島氏は 「わが社は蚊帳

域の中で培われたノウハウ 初めての挑戦でしたが、地 帳の生地を取り扱うことは です。連携した二社とも蚊 ジネスモデルの展開を図れ きる蚊帳がついにできたの に着目することで新たなビ 発会社と米国在住のネイチ

を組み合わせて生み出され ャーサウンド編集者の技術

た枕「おとみん」が完成し

に、浜松市のスピーカー開

ました。

既存の薄型ブックスピー

蚊帳の博物館を設立「共生から共眠」

型の「アンダーピロースピ

-カー」が使われています。

めに開発した高音質・超薄 カーを改良し、この枕のた

容易に創ることが可能にな 睡眠時の腹式呼吸リズムを これで安眠の課題であった

スピーカーから流れる3

ることを知りました。

物館を設立 る考え方を提唱。そして二 というテー 現地に寄付するマラリア撲 出展したり、アフリカでは 要望に応えていきました。 環境学会で「共生から共眠」 た。一九九九年には、睡眠 滅運動も行ったりしまし 蚊帳は命を救うものだと、 またパリ国 の蚊帳も開発し、お客様の しました。 〇〇五年、 ハンカチタオルの売上金を ベッド用やムカデ対策用 -マで睡眠に対す し、全国へ発信 自社に蚊帳の博 |際家具見本市に りました。

を採用しました。寝ている チャーサウンド(自然な音) 症患者にも処方されるネイ Dの音にもこだわり、不眠

ハはスピーカーの位置を感

役に立つことが 生きる力に

えていくことで、社会の明 皆が蚊帳の『中』として捉 の明日への希望や活力を見 日が希望に満ち溢れた平和 来事も蚊帳の『外』でなく、 っているさまざまな暗い出 す。「人は共に生き、育ち、そ を育んでいることと言えま 出す、まさに「生きる力」 る」という経営姿勢を追求 な世の中になれば」と三島 して眠る。今、世界で起こ し見つめ直すことは、人々 「より良い眠りを提供す

も役立ちます。

ライフスタイルに併せて展開する麻の蚊帳。天然の麻生地が湿気を 吸収、発散して蚊帳内の体感温度を下げる効果があり、 夏の節電に

業を継ぐ決意をしました。 生活にピリオドを打ち、 葛藤の中で商店街存続の危機の

社会的使命に終焉を迎えざで、すでに従前の寝具店の るをえない状況でした。そ がささやかれていた時代 れでも生業として生かされ 折しも商店街存続の危機

時二十二歳だった三島氏 識することができました。 は、福島大学卒業後、東京 三日後、白血病で他界。当 現在の菊屋に改名し、その でサラリーマン生活を送る 九七八年、父が社名を ち込みました。 自社の業績も落 時代に突入し、 つことが困難な を始める眠りの勉強

は地域に根を張る植物のよ 町の小売店

うなもの。そして、役立っ を見つめ直し、先代から掲 ているかという人々の評価 て自社の社会的使命が何か 対評価として捉えている」 は、絶対評価ではなく、相 事業の存続のため、改め

と三島氏は言います。

「蚊帳は売っています